

# 中学校社会科における思考力・判断力・表現力等の育成を目指して（2年次）

－課題設定を重視した課題解決学習の在り方－

中島 一郎（京都市総合教育センター研究課 研究員）

中学校社会科において、思考力・判断力・表現力等を育むためには、課題解決学習の充実が必要である。昨年度は、単元・単位時間を構造化して課題解決のプロセスを明らかにし、その中に言語活動を位置付けることで、その充実を図った。また、学習支援のためのアシストカードを開発し、集団で交流する学び合い学習を授業に導入した。今年度は、学習活動の方向性を決めたり、生徒が主体的・意欲的に取り組んだりする上で重要なポイントとなる、「学習課題の設定」に焦点を当てて研究を進めた。更に、生徒が自分の考えを適切に表現するために、「キーワードを活用した論述」に取り組んだ。

## 第1章 中学校社会科における課題解決学習

### 第1節 中学校社会科教育の現状と課題

京都市中学校教育研究会社会科部会会員を対象に、課題解決学習について「学習課題の設定」「言語活動の充実」「生徒が考えを交流する場面を取り入れた授業」という視点からアンケートを行った。その結果、下記の現状と課題が明らかになった。

- 「学習課題」について、指導者は工夫することが必要であると考えて取り組んでいる一方で、難しさを感じている。
- 「言語活動」について、指導者は必要性を感じ取り組んでいるものの、「説明」「発表」「交流」の指導に難しさを感じている。
- 指導者は、生徒が「学習課題」を設定し解決を図る授業に、あまり取り組んでいない。

以上のことから、学習課題設定の工夫と、生徒が説明、発表、交流する活動の指導について、具体的に示す必要があると考えた。

### 第2節 求められる課題解決学習の在り方

アンケートの結果を踏まえ、求められる課題解決学習の在り方について考える上で、次の『活用』を図る学習活動に着目した。

- 学習活動①「資料から必要な情報を集めて読み取る」
- 学習活動②「社会的事象の意味、意義を解釈する」
- 学習活動③「事象の特色や事象間の関連を説明する」
- 学習活動④「自分の考えを論述する」

これらの学習活動は、全て社会科における言語活動を伴うものであることから、その充実のために「書く」ことに重点を置いた表現活動の指導が必要であると考えた。

## 第2章 課題解決学習を充実させるために

### 第1節 学習課題設定の工夫

課題解決学習を充実させるためには、前述の四つの『活用』を図る学習活動に応じた学習課題の設定が必要であると考え、次に示す「学習課題の三つのステップ」（図1）を考案した。

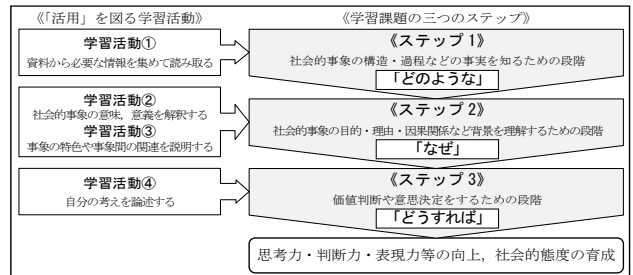


図1 「活用」を図る学習活動に応じた学習課題の三つのステップ

学習活動①に対応するステップ1は、社会的事象を事実として知る段階なので、「どのような」と問う。学習活動②と③に対応するステップ2は、ともに社会的事象の背景を探り、目的や因果関係を理解するための段階なので、「なぜ」と問う。学習活動④に対応するステップ3は、社会的事象に存在する課題の解決策について、価値判断や意思決定をする段階なので、「どうすれば」と問う。

単元においては、図2のAで、指導者が設定したステップ1及び2の学習課題を提示して取り組み、Bで生徒各自が新たな疑問に基づいて学習課題をつくる。単元のまとめの

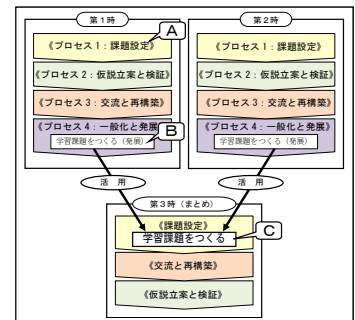


図2 単元での学習課題設定の流れ  
時間のCでそれらを活用し、生徒がステップ3の学習課題を設定して、追究し論述することとした。

### 第2節 キーワードを活用した論述

「書く」ことに重点を置いた表現活動の指導として、その授業で習得すべき知識をキーワードとし、調べたことや考えたことを文章でまとめる際に活用することとした。キーワードは、生徒各自が家庭学習で教科書を基に挙げ、授業の冒頭で、全体の場において確認するようにした。

### 第3章 実践を通して

#### 第1節 1年生での実践授業から

##### ①地理的分野「ヨーロッパ州」

単元の第1時から第3時で、生徒は指導者が設定したステップ1と2の学習課題に取り組んだ。

単元のまとめである第4時では、EUの現在の課題について、生徒各自がステップ3の学習課題を設定し、グループで交流して一つにまとめ、追究した。次は、その一例である。

◇生徒個人の学習課題  
「なぜ、域内格差ができてしまうのか。また、どうしたら格差がなくなるのだろうか。」  
◆グループの学習課題  
「どうすれば、EUの域内格差をなくすことができるのか。もし域内格差がなくなれば、EU全体はどのように変わるのか。」

グループで交流することで、価値判断・意思決定に加えて未来予測を求める内容にまで高まっている。生徒は各自でグループの学習課題について、キーワードを活用し、自分の考えを論述した。

この単元では、指導者も生徒も、学習課題の三つのステップに基づいた課題づくりに取り組むことができた。

##### ②歴史的分野「日本の古代国家の形成」

単元の第1,2時で、指導者が設定した学習課題に取り組み、ヤマト王権成立から大化の改新までの流れを、大陸との関係を背景にとらえた。それを踏まえて第3時では、生徒がこの時代で最も重要と考える出来事について「もしもそれが起こっていなければどうなっていたか」と問うことで、歴史の転換やつながりを意識して考え、その時代の特色を理解することができた。

#### 第2節 2年生での実践授業から

##### ①地理的分野「日本の姿」

単元の第1時～第3時で、指導者が設定したステップ1と2の学習課題に取り組み、日本の位置と範囲をとらえた。その直後に「日本の領土問題」を扱う2時間を特設して、生徒がステップ3の学習課題を設定し追究した。

生徒は「あなたが総理大臣なら、北方領土問題をどのように解決したいですか。」「北方領土が返還されたら、日本はどう変化すると思いますか。」といった学習課題をつくり、第3時に習得した「排他的経済水域」の知識を活用して考え、文章で論述することができた。

##### ②地理的分野「近畿地方」

単元の第1時～第5時で、指導者が設定したステップ1と2の学習課題に取り組み、環境保全の

視点から、近畿地方の自然や産業、歴史的景観についてとらえた。それらの学習を踏まえ、生徒が近畿地方の課題についてステップ3の学習課題を設定し、追究する時間を第6時として特設した。

生徒は各自で考えた課題を基に「環境保全のために一人一人の意識をつけ、ポイ捨てや川へのゴミを減らすためには、どうしたらよいか。」「これから日本が発展していく中で、歴史的景観を守るためには、どうすればよいか。」などの学習課題をグループで設定し、追究した。この時間では教科書以外の多くの情報が必要だと考え、学校図書館を利用したことで、様々な図書資料を活用し、多様な視点で考えをまとめる生徒の様子を見取ることができた。

### 第4章 思考力・判断力・表現力等を確実に育むために

#### 第1節 研究の成果と課題

実践授業の前後に、選択肢と自由記述による生徒アンケートを実施した。アンケートを分析した結果、学習課題の三つのステップに基づき、課題の設定に工夫を加えることが、学習意欲を高め、多様な視点で考察し、学習を探究的なものへと発展させる上で有効であることがわかった。また、キーワードを活用して、調べたことや考えたことを文章にまとめる取組は、論述内容を充実させ、更に、説明・発表・交流という音声言語による表現活動を充実させることも明らかになった。

一方で、取組の目的や方法を生徒が十分に理解するための事前指導や、授業のねらいや学習課題に合わせて、課題解決の各プロセスの時間配分を柔軟に考えることが必要であることもわかった。

#### 第2節 自らの課題に向かう生徒の育成を目指して

本研究において実践した取組を、学習モデル(図3)としてまとめた。「身近な課題や現在の社会問題」

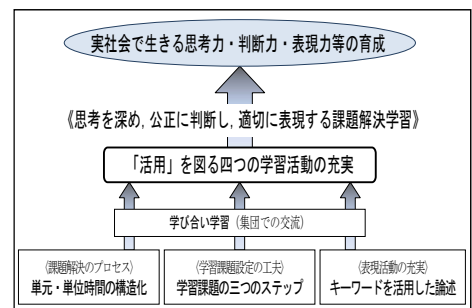


図3 課題解決学習を充実させる学習モデル  
「様々な体験」「豊富な情報」「教科等をこえた連携」で、社会科の学習と実社会をつなぐことが、このモデルを通して実社会で生きる思考力・判断力・表現力等を育む上で重要である。